

NNRTI耐性関連変異はRTのNNRTI結合部位の形状を変化させる

- 逆転写の触媒ドメインは、しばしば右手に例えられる三元構造を取る。
- 多様な化学構造を持つにもかかわらず、NNRTIは全て、RTの活性ドメインと異なる部位であるHIV-1RTの疎水性ポケット内部の同じような位置に結合する。
- NNRTIが結合するとRTの構造が変化する。
- NNRTI耐性関連変異のほぼ全てがこのNNRTI結合ポケットの内部または近傍で認められ、NNRTIポケットの形状を変化させてNNRTIが結合できないようにする。